

# 呑川は流れる・2004 刊行にあたって

呑川の会代表 大坪 庄吾

1997年、呑川の会発足以後6年が経過しました。2003年度計画の中で、今までの呑川の会の活動をまとめ新たな発展の転機にしたいといくつかの計画が決まりました。

1つは2003年10月からはじめた「呑川とあなたの暮らし」という講座でした。30人の参加者を得て、呑川の会の研究活動を報告しました。それにあわせて2002年以来計画し、会員が分担してきた呑川調査を生かした、「呑川マップ」の作成でした。これも完成しました。

3番目の計画は「呑川は流れる・2004」をまとめることでした。1966(昭和41)年3月、大田区教育委員会発行の郷土学習資料「呑川は流れる」という冊子があり、呑川についての研究の基本文献として私たちが活用させていただいていました。地域の河川についてのこれだけの研究はそれ以後発行されていません。

以後30年 以上たった現在、その後の研究や変化も入れた「呑川を流れる」を発行しようという機運が盛り上がり、編集が進められました。「呑川は流れる」には1966年の時点での呑川についての諸研究がつまっています。

今でも活用したい部分がたくさんあります。私たちは大田区教育委員会にもお願いして、「呑川は流れる」の中から数章を採録する許可をいただきました。誌名を「呑川は流れる・2004」とさせていただいたわけも、先人の研究に感謝する気持ちを込めております。

呑川はこの30年間に大きく変わりました。「呑川は流れる・2004」の発行は「大田区子どもたちの耳目にふれる身近な地域」に「住民の生活の歴史があり、人々が生活の向上発展をめざしてきた願いが今の区民にひきつがれてきているのである。特に呑川の流域にはこのような資料が多い」(郷土学習資料 呑川は流れる 発刊にあたって 大田区教育委員会教育長 吉田義雄)、と書かれている意志を継ぐことにもなります。その歴史と現状をつかむことから次の課題が見つかり、また活動の転機も訪れるのではないかと期待もありました。

短い期間の編集のため至らない点もありますが、2004年の時点での呑川についての資料となることと思っています。呑川については学校教育の中で総合学習のテーマとして取り上げるところがふえています。大田区を流れる多摩川や呑川は、地域の環境を考え、学習する素材としてたいへん役立つはずで、水や河川についてのさまざまなネットワークが各地に生まれています。この資料は環境問題にとりくんでいる方々とのネットワークづくりにも役立つと考えています。

この資料は今後も改訂しながら、あらたな研究を盛り込み、最新の成果をお届けすることも考えております。

作成にあたり多くの方々にお世話になりました。紙面を借りて厚く御礼申し上げます。

また本冊子は、(財)リバーフロント整備センターの平成15年度「川に学ぶ」活動助成を受けて作成されたものであることを付記します。